

防長青年 第1巻第1号（雑誌文庫-Y防長青年1）

## 記録 ④

# 「創刊号」を見てみよう

### 《雑誌を創刊する》

雑誌などの定期刊行物が始められる時、その創刊号には特別な思いが込められます。「こんな新しい世の中を作りたい」、「この雑誌で情報をしっかり伝えたい」など、創刊号には未来への期待や希望など、ある種、独特な高揚感が漂っています。それでは、「始まり」のエネルギーに満ちた創刊号をいくつか見てみましょう。

### 《『防長青年』創刊号》

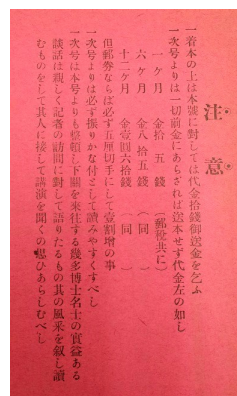
防長青年は明治43年(1910)5月に、馬関毎日新聞主筆野原秋草が山口県の青年団の統一組織である「山口県青年会」の結成をめざして発刊した雑誌です。

冒頭の「余が山口県青年会を起し防長青年雑誌を發行するの理由」には野原の創刊への思いが熱く語られています。

当館には『防長青年』の創刊号から第3号までが所蔵されています。第3号には、

この活動をより広範囲なものにするため、雑誌の名前を『活動之青年』に変更すると書かれています。しかし、後継の雑誌の所在は今のところ確認できていません。

さて、発刊への思いが込められる創刊号ですが、十分な態勢が整わず手探りの状態で出されることがあります。



この『防長青年』創刊号にも次のようなチラシが挟まれています。

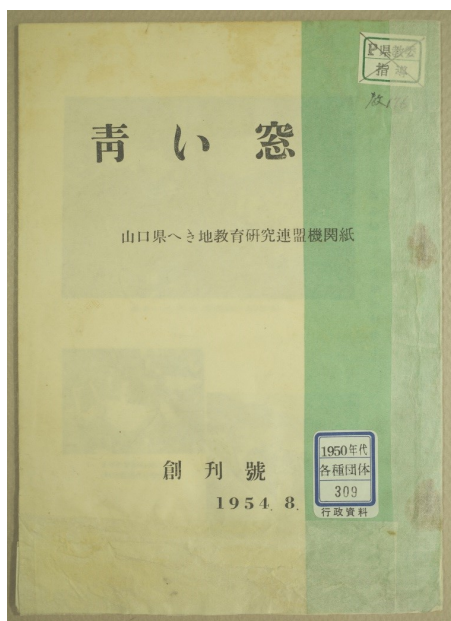
そこには、購読方法の説明に加えて、「次号から必ずふりがなを付けて読みやす

くする」「次号は本号よりもっと整頓する」「名士や博士の談話はあたかもその人に接して講演を聴いているようなものにする」などと記されています。こうしたことが書かれるのも創刊号ならではのことでしょう。

3	【次号名】山口県の雑誌 創刊号 【収録頁】50枚巻78号【発行】昭和24年11月19日【部数】1 【分類】行政資料> 国史> 1950年代> 雑誌
4	【次号名】徳島 創刊号 政界新聞日録 第6号 【収録頁】50枚巻16号【発行】昭和26年1月17日【部数】1 【分類】行政資料> 国史> 1950年代> 雑誌
5	【次号名】徳島 創刊号 山口県立中央教育研究所 【収録頁】50枚巻209号【発行】昭和26年1月19日【部数】1 【分類】行政資料> 国史> 1950年代> 雑誌
6	【次号名】徳島での 創刊号 【収録頁】60枚巻205号【発行】昭和26年1月17日【部数】1 【分類】行政資料> 国史> 1950年代> 雑誌
7	【次号名】徳島での 創刊号 【収録頁】60枚巻162号【発行】昭和26年1月17日【部数】1 【分類】行政資料> 国史> 1950年代> 雑誌
8	【次号名】徳島での 創刊号 【収録頁】60枚巻192号【発行】昭和26年1月17日【部数】1 【分類】行政資料> 国史> 1950年代> 雑誌

当館のWebページの検索サイトで「創刊号」や「No.1」などのキーワードを入力して検索すると、数多くの創刊号がヒットし、上のような画面が表示されます。

それら一つひとつから創刊の思いを感じとることができるでしょう。



「青い窓 創刊号」（1950年代各種団体309）

### 《『青い窓』の創刊》

『青い窓』は、へき地教育に携わる教員の研究グループである「山口県へき地教育研究連盟」の機関誌として昭和29年(1954)9月に創刊されました。連盟の事務所は山口県教育研究所内に置かれました。

へき地教育に関しては、昭和29年6月1日に教育の機会均等の理念に基づき「へき地教育振興法」が制定されていますが、この研究グループの活動もこうした社会の動きを反映したものとと言えます。

冊子の内容は現場の実践記録、研究物、児童の作文や作品、体験談や他校視察紹介、その他短歌や俳句等からなっています。

以下、創刊の思いを拾ってみましょう。

「待ちに待った私どもの研究機関紙がようやく誕生いたしました。一時も早くと思いが、……（こうした所にも僻地性があると思いますが）、いろいろの悪条件にはばまれましてつい一学期をすごしてしまい発行の遅れましたことをお詫びいたします。」

「へき地の現場の先生方が日々実践の体験や記録を、そのまま素直に交換し合うことこそ本誌の生命でありへき地教育振興の原動力と思います。本誌が山や海のご不自由な地域で勤務される先生方の魂と魂の結びつきとして、憩いの場として発展するようご協力をお願いします。」

「本誌をよりよく永続させ育てるために希望やご意見をお聞かせください。」



「グラフやまぐち 1968.5」（1960年代企画293）

### 《『グラフやまぐち』の創刊》

昭和43年(1968)5月、『県政やまぐち』からバトンタッチされる形で、『グラフやまぐち』が新しい県の広報誌として創刊されました。よりビジュアルなグラフ誌に生まれ変わり、県政の今を伝えることになりました。

創刊号には次のようなチラシが挟まれており、『グラフやまぐち』に寄せる思いが書かれています。

「『県政やまぐち』は昭和42年度限りで廃刊することになりました。長い間、ご愛読いただき、ありがとうございました。」

『県政やまぐち』に代わって、5月から『グラフやまぐち』をお届けすることにいたします。

『グラフやまぐち』は、県政の動き、新しい町づくり村づくり、発展するふるさとの産業や社会の姿などをカメラでとらえ、みなさまにご覧いただくというものです。

待合室の一隅においていただくとか、グループに回覧していただくなどできるだけたくさんの方々にご覧いただくようお願い申し上げます。」